

平成26年度第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成26年度第1回木更津市史編集委員会

2. 開催日時 平成26年5月29日(木) 午後2時30分～4時00分

3. 開催場所 木更津市役所6階委員会室

4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名

金子馨委員長、三浦茂一副委員長、成田篤彦副委員長、相山林継委員、
島立理子委員、川戸貴史委員、實形裕介委員、石井良幸委員、堀切由彦委員
教育委員会事務局5名

初谷教育長、齊藤教育部次長、今関文化課長、小高副主幹、寺原事務員

5. 議題及び公開又は非公開の別

報告1 平成25年度木更津市史編集委員会議事内容(公開)

議題1 『図説 木更津のあゆみ』の活用(公開)

議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定(公開)

(1) 市史編集組織(案)について

(2) 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)について

その他(公開)

(非公開の理由)

6. 傍聴人 2人

事務局(今関文化課長)

定刻となりましたので、ただ今より平成26年度第1回木更津市史編集委員会を開会いたします。

本日の進行を務めます文化課の今関です。よろしくお願ひ致します。

本日の市史編集委員会は、池田委員から都合により欠席のご連絡がありましたので報告いたします。

会議については、附属機関設置条例第6条第2項の規定により成立しています。会議は公開で行うのでご了承下さい。なお、4月1日付け定期人事異動により前任の小河原委員に代わり、堀切委員が企画部に配属されたので、堀切委員が4月1日付けで市史編集委員会委員に任命されたことを報告します。

それでは、堀切委員より、自己紹介をお願いします。

堀切委員 自己紹介

事務局(今関文化課長)

ありがとうございました。続きまして、初谷教育長よりごあいさつ申し上げます

ます。

初谷教育長 本日は、大変お忙しい中、第1回木更津市史編集委員会にお集まりいただき、ありがとうございます。

昨年度3月26日に最後の市史編集委員会を開催しました。本日の報告では、これまで示してきた『木更津市史』編集基本構想及び基本方針、あるいは刊行計画について様ざまなご意見、ご示唆をいただき、それらを加味して事務局から提案したので改めてご意見ください。特に、議題1については、前回（平成25年度第4回木更津市史編集委員会）も示しましたが、今回は、意見を踏まえながら絞った内容で提案しているのでよろしくお願いします。

事務局（今関文化課長）

金子委員長より、ご挨拶をたまわりたいと存じます。

金子委員長 各委員お忙しい中、出席ありがとうございます。新年度最初の委員会ですが、昨年度第4回木更津市史編集委員会で検討したことについて、事務局で整理して2つの議題を用意しています。よろしくご検討ください。

事務局（今関文化課長）

ありがとうございました。次に、事務局職員も4月1日付け定期人事異動および組織改変がありましたので、紹介します。

事務局職員自己紹介

事務局（今関文化課長）

資料確認をお願いします。本日の編集委員会次第、出席者名簿、席次表、報告事項として1から3ページまで、議題として4から10ページまで、市史編集委員会日程を11ページに載せております。

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を金子委員長にお願いします。

金子委員長 これより議長を務めます。本日は、1つの報告事項と2つの協議事項について事務局から提出されております。はじめに、報告事項について事務局より説明願います。

事務局（今関文化課長）

報告第1号として、平成25年度木更津市史編集委員会議事について報告します。平成25年度の木更津市史編集委員会は、4回実施しました。実施日時および議題内容は、資料1ページのとおりです。このうち、昨年度第4回市史編集委員会で委員の皆様から出された主な意見と事務局からの回答内容については、資料2・3ページのとおりです。『図説 木更津のあゆみ』の活用方法

として、これまでの調査研究成果を活用した講演会やフィールド散策等を年1・2回の割合で実施することを提案しました。

委員の皆様には、了承いただくとともにいくつかご提案いただきました。

これをもとに本日の議題1として上程したので、後ほど説明します。

市史編集組織と、編集基本構想及び基本方針については、事務局案を提出し、委員の皆様にご協議いただきました。協議結果をもとに、本日の議題2として修正案を上程しました。後ほど協議願います。なお、第4回市史編集委員会の詳細については、会議録として市のホームページで公開しております。会議録の希望があれば、委員会終了後に事務局までお願いします。

金子委員長 ありがとうございます。事務局から平成25年度の市史編集委員会について報告がありました。質問、意見があればお願いします。

金子委員長 特に質問がなければ、本日の議題について事務局の説明をお願いします。

事務局（今関文化課長）

議題第1号の『図説 木更津のあゆみ』の活用について、先ほどの報告でも説明したように、委員の皆様から学習会や講演会の開催について了承を得ましたので、【木更津市史編集事業公開講座】を開催します。詳細は、小高総括から説明いたします。

事務局（小高副主幹）

日時は、7月27日の日曜日、午後1時30分から木更津市民会館小ホールで行います。

内容は、「盤洲干潟（ばんずひがた）のいきものたち」と題して、5人の方々に講師を依頼します。定員は100名程度で、電話、FAXまたはEメールで事前申込みを受付けます。広報活動は、広報きさらづ7月号、市のホームページ、かずさエフエムの6月28日放送予定の番組「ステップアップきさらづ」で紹介いたします。この他、市の定例記者会見で、報道関係に資料を提供する予定です。

事務局（今関文化課長）

小高総括より説明した公開講座の開催内容について、委員の皆様のご異存がないようでしたら、この内容で開催するのでご協議ください。

また、今後の公開講座については、前回の市史編集委員会で提案したテーマをもとに継続実施する予定です。講座内容、実施の順番等については、後日、皆様のご意見をお願いします。

金子委員長 事務局より、議題第1号として【木更津市史編集事業公開講座】の開催について説明がありましたが、意見、質問がありましたらお願いします。

石井委員 公開講座の進行の方法を教えてください。

事務局（小高副主幹）

盤洲干潟に生きる動物、植物、盤洲干潟の様子などの説明と、それらを総括するとともに千葉県における盤洲干潟の位置づけを話していただく予定です。

成田副委員長 『図説 木更津のあゆみ』の内容に沿って講演を行います。また盤洲干潟や、盤洲干潟に生きる生き物たちについて、余り知らない方たちを対象にします。

三浦副委員長 当日は、現地に行きますか。

成田副委員長 現物を体験することが一番よいので、自然観察と講演を両方実施する方が一層理解を深めると思います。ただ、初めての試みなので、今回は講演会のみを行い、第1回の公開講座の成果を踏まえて方法を考えたい。

堀切委員 開催予定日がありますが、講師依頼関係の調整のためということですか。

事務局（小高副主幹）

お見込みのとおりです。

實形委員 公開講座開催日に『図説 木更津のあゆみ』の有償分在庫はありますか。

事務局（小高副主幹）

若干、在庫があるので、会場内にブースを設けて提供を予定しています。

金子委員長 議題第1号の反対意見はないようなので、公開講座の開催は了承ということによろしいでしょうか。

出席委員了承

金子委員長 それでは、了承ということで、事務局は公開講座開催に向けて事務を進めてください。また、次回以降の公開講座の内容等についても、平成25年度第4回木更津市史編集委員会の意見等を踏まえながら事務を進めてください。あわせて、開催通知を各委員に送付するよう要望します。

次に、議題第2号について事務局の説明をお願いします。

事務局（今関文化課長）

議題第2号についてですが、はじめに、(1)市史編集組織の修正案を提案します。前回の市史編集委員会で、11部会の設置を提案しましたが、今回は資料のとおり8部会としました。

歴史系部会は、原則、時代区分を基準にしていますが、考古部会は、埋蔵文化財資料を対象として旧石器時代から近世まで、多岐にわたる資料を扱うため、独立させています。

また、本年1月30日に開催した第3回市史編集委員会で、『木更津市史』のWeb版作成について提案しました。その中で、紹介した三重県亀山市の『亀山

市史』Web版にならい、本市でも『木更津市史』Web版を作成するため、デジタル作業部会を設置して、Web版の編集やその他デジタル・コンテンツの編集にたずさわります。

各部会の委員は、数名から10名ほどの調査研究・執筆員を置き、各部会の中から部会長を定め、市史編集室および部会の運営、会議、市史編集委員会への報告等を行います。

宗教、建築、金石、石造物等については、歴史系および民俗部会が関係する箇所をそれぞれ担当するため、個別に部会は設置しません。

指定文化財は、事務局が文化財保護審議会等の意見をうけながら編集するため、部会は設置しません。

市民協働は市史調査協力員として市民の協力を求めますが、参考として他の自治体の状況を小高総括より報告します。

事務局（小高副主幹）

平成24・25年度に自治体史編集状況を調査した自治体のうち、今年度以降も市史編集業務を実施する市川市、八王子市、熊谷市、館林市の4市に伺ったところ、市川市と熊谷市は、ボランティアを受け入れていません。ただ、熊谷市では立正大学古文書研究会との共同事業として、資料目録作成を行っています。謝礼・報償金は発生せず、目録作成作業場所を提供しています。

八王子市は、ボランティアを受け入れているものの、特に規程は定めていません。ボランティアの方々は、公民館等の歴史講座等で郷土史研究に係っている方たちです。

館林市では、ボランティアではなく調査協力員として市内にある古文書研究会等から紹介いただいた研究者や学校の先生等に協力を求めています。調査協力員は保険は加入していませんが、少額の謝礼をだしています。特に、登録に係る規定は定めていません。

金子委員長 事務局より、議題第2号(1)の市史編集組織の事務局案について説明がありました。今の事務局案を踏まえて、意見をお願いします。

川戸委員 各部会の部会長は、市史編集委員会委員と兼務してよいのかどうか伺いたい。
事務局（小高副主幹）

現段階では、特に規程は設けていません。各委員のご意見をお願いします。

成田副委員長 第4回木更津市史編集委員会、三浦副委員長から編集委員会委員と部会の委員について同様な意見が出ていましたが、ここで取り決めたほうがよいのでしょうか。兼務を認めるのかどうか、事務局の考えを聞かせてください。

事務局（小高副主幹）

実形委員からも編集委員会委員と部会の委員を区別すると委員をやる方が少ないのではと意見がありましたので、兼務を制限する規定は削除しました。

実形委員 編集委員会委員と部会長の集まる機会を設けるのであれば、部会長との兼務は避けたほうがよいでしょう。

事務局から他の自治体の事例を伺いましたが、県内では野田市、四街道市、印西市も市史編集を行っており、このうち四街道市と印西市は『図説 木更津のあゆみ』のように概要版を発行してから本格的な市史編集事業を進めています。そうした自治体の状況も聞いてみてはどうか。

事務局（小高副主幹）

今後も他の自治体での市史編集事業実施状況を継続調査します。

実形委員 今日、本格的な市史編集の実施について検討するまでは至らないということでもよろしいですか。

事務局（小高副主幹）

本日の議題について検討してからお願いしたい。

金子委員長 議題第 2 号(1)の市史編集組織の事務局案について、反対意見はないようなので、市史編集組織の事務局案について了承ということでもよろしいでしょうか。

出席委員了承

金子委員長 それでは、了承ということで、事務局はこの市史編集組織設置に向けた事務を進めてください。

次に、議題第 2 号(2)の『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)について事務局の説明をお願いします。

事務局（今関文化課長）

議題第 2 号(2)についてですが、前回の編集委員会での意見を踏まえ、修正案を提案します。木更津市史基本構想及び基本方針の修正案を 6 から 9 ページに、刊行計画を 10 ページに載せています。

大きな内容修正はなく、修正点のみ小高総括より説明します。

事務局（小高副主幹）

1 の策定の趣旨および 2 の市史編集の目的は変更せず、現在策定中の本市の基本構想に基づいています。

3 の編集方針は、(4)のニューメディアの活用の中で、池田委員から DVD がニューメディアとしていつまで残るのが疑問との指摘をうけ、DVD の文言を削除して、「デジタル・コンテンツ等」とします。

4の『木更津市史』の内容および構成も、CD・DVDの文言を削除し、「デジタル・コンテンツ等」に修正しました。また編集組織（案）同様、自然・地誌編を自然編に修正し、(2)ウのデジタル版『木更津市史』を『木更津市史』Web版に修正しました。(2)エの『市史研究』の発行については、発行頻度を決めていません。『市史研究』は、掲載内容および発行頻度等改めて意見ををお願いします。

5の編集計画は、現在の市史編集事業の進捗状況を踏まえると、部会設置は平成27・28年度中になろうかと思えます。

刊行物は、指定文化財編を除く金石文、石造物、建造物等は、歴史系部会と民俗部会が編集する史料編と報告書に加えます。

また、市史編集事業は、平成42年度を目途に進めます。Web版作成は、ある程度刊行物を発行してから実施します。

なお『市史研究』は、刊行頻度を決めなければならないので、刊行計画には項目のみ記載しています。

6の編集組織は、議題2(1)で説明したように専門部会を設置します。

7の市民協働ですが、前回の編集委員会においては、「(2)市民によるボランティアの活用を図るなど、市民参加、参画の機会の拡大に努めます。」としましたが、他の自治体の状況を踏まえ具体的表現にするため(2)の項目を削除し、(3)を(2)に繰り上げ、地域の研究団体や公民館等で活動する個人や学校と連携して市史編集を進めるようにします。

金子委員長 事務局より、議題第2号(2)の木更津市史編集基本構想及び基本方針の事務局案について説明ありました。今の事務局案を踏まえて、項目順に意見ををお願いします。

梶山委員 市史編集事業は長期的になるので、それぞれの段階で見直したり、編集委員の変更もあると思います。また市の方針によっては策定の趣旨の理念的な部分も変わることがあるので、見直す余地を残して、対応できるようにしておけば基本的によいと思います。

石井委員 8ページ3(4)中のニューメディアの理解の仕方についてですが、今の10代から20代の世代の間でカセットテープの流行が認められます。彼等のニューメディアの一つに、カセットテープが含まれるようです。デジタルコンテンツの表現は、その時々で新しいものを入れるということによろしいでしょうか。

事務局（小高副主幹）

現段階では、デジタルコンテンツを決められません。ただし、一貫性のある

媒体で公表することも大切です。この点について、委員の方々の意見を踏まえながら決めたいと考えます。

川戸委員 8頁4『新版』の内容、構成の中で、通史編5冊のうち「中世編」を独立して1冊となっていますが、1冊のページ数をどのくらいとするかにもよりますが、変更も可能でしょうか。

事務局（小高副主幹）

対象となる資料は、古文書、金石文、石造物、建築物、考古学資料等と多岐に渡っており、これらの資料をもとに「中世編」の刊行を考えています。また、本市には中世にさかのぼるといわれている鋳物師集団の大野氏に関する資料もあるので、個別に刊行したほうがよいと考えております。

梶山委員 市史編集事業は20年も先まで続くと、20年後は戦後から90年経過したことになります。「近現代編」を近代、現代として現代をおよそ戦後として扱うならば、かなりの分量になります。その点も含めて、分量は後々考えていけばよいと思います。多分近現代編は、「近代編」「現代編」に分かれて行くと思います。

島立委員 「民俗編」は報告書を刊行し、最終的に通史編の「民俗編」を出すこととなります。20年という期間を考えると、資料の中で新しい情報と古い情報が混ざってしまうが、これは仕方ないと思っています。

石井委員 10ページ刊行計画の中で、編集部会を平成27年度を中心に前後の年度で設置を検討しているようですが、編集部会の中のデジタル作業部会については、必要が生じたときに設置するというところでよろしいでしょうか。

事務局（小高副主幹）

デジタル作業部会は、ある程度資料がまとまった段階で設置し、他の部会より遅れて設置することになります。

梶山委員 事務局は、木更津市立図書館の郷土室、あるいは県立中央図書館郷土室で地域にどのような研究者がいるか、公表資料などのデータを定期的に収集して、研究内容によっては依頼できるのではということ、編集委員会の中で紹介してほしい。そして、市民協働ということで、協力関係が得られるような体制を整えたほうがよいと思います。

金子委員長 事務局は、今の意見を受けて情報収集をお願いします。

三浦副委員長 市史編集室の設置について見通しはありますか。

事務局（小高副主幹）

編集組織を8部会設置し、これを運営するには市史編集室が必要になると考

えています。また、現在の進捗状況を踏まえると、平成 28 年度頃までに市史編集室を設置できるのではないかとということで刊行計画（案）を作成しています。また詳しい内容については、委員の方々に協議していただきたい。

金子委員長 市史編集室の設置を、是非実現してください。

川戸委員 市史編集室の設置場所はどのように考えていますか。木更津市史の編集にボランティアの方々に協力いただくとなると、どのような場所だったら気軽に来やすいのかも考えて、設置場所を選定して欲しい。また、私たちも気軽に来れる場所のほうがボランティアの方々に手伝ってもらいやすいと思います。

事務局（小高副主幹）

市史編集室の設置場所は、他の部署へ活用できる場所があるか相談していますが、候補先は決まっています。

事務局（今関文化課長）

市史編集室の設置は、組織と場所の 2 面性があります。今年度から文化課は、文化担当の 1 担当制から文化芸術振興担当、文化財担当の 2 担当制になり、文化芸術振興担当が市史編集事業を行います。

私見ですが、文化芸術振興担当に市史編集室のセクションがないと片手間では事業を進められません。市史編集事業は、色々な方々が部会ごとで集まり、資料収集などを行わなければなりませんので、組織と場所の両方を考えながら進めたいと思っています。

實形委員 3 新たな市史編集の方針についての(6)で、「資料は、国内外から広く収集し」とありますが、市史編集でいきなり国内外の資料を調査するという表現はいかがでしょうか。

事務局（小高副主幹）

『図説 木更津のあゆみ』編集にあたり、アメリカのメリーランド大学プランゲ文庫所蔵資料を掲載しています。この点を踏まえて「国内外」としました。

實形委員 近現代資料でアメリカにある資料を収集するのはかまいませんが、市に残っているものから収集するのが始めて、そこから関連する資料を広く収集するような表現にしなければならないと思います。

現在、残っている資料は指定文化財に限らず全て残さなければなりませんので、この点も入れて表現してください。

事務局（小高副主幹）

承知しました。

第 4 回木更津市史編集委員会の中で川戸委員から、中世資料は、新発見は県

外からで、ほとんどは活字資料を活用することになるという意見を踏まえ「市内外」という表現ではいかがですか。

島立委員 「市内外」ではなく、「市内の資料はもちろん、市内の資料を踏まえて市外の資料も含める」というような表現にしてください。

實形委員 段階を踏んで、さまざまな資料を集めるような表現にしてください。

島立委員 市史編集委員会は、教育委員会に設置するというところでよろしいですか。

椋山委員 主管は、市の方針でよろしいのではないのでしょうか。

金子委員長 委員の方々から貴重な意見をだしていただきましたが、意見も本日のところは出尽くした感があります。事務局から、その他として何かありますか。

事務局（今関文化課長）

本年3月に市民からの通報で、旧海軍零式艦上戦闘機の燃料タンクを保管していると通報があり、4月9日に小高総括が聴き取り調査を行いました。その調査結果を小高総括より報告します。

事務局（小高副主幹）

調査は郷土博物館金のすずの稲葉副主幹とともに行いました。所有者の希望により、所在地、所有者名は伏せます。

燃料タンクは、「零戦五二乙型の陸海軍の統一型増槽」です。材質は木製で、大きさは全長2m程、直径50cm程です。

終戦直後、岩根にあった旧木更津海軍工廠から4～5個持ってきたようですが、今の所有者は、当時4歳位だったので詳細はわかりません。

近所の方で、飛行機の胴体を持っていた方もいたようですが、朝鮮動乱（朝鮮戦争）で金属の価格が高騰したときに売払われてしまったようです。

統一型増槽は、木製なので輪切りにして犬小屋やチャボの卵の産み小屋にしてしまったため、今は1つしか残っていません。

はじめ、所有者から袖ヶ浦市へ通報され、袖ヶ浦市職員が先に調査に入っているため、実測図等の公表は袖ヶ浦市職員の公表結果を待ちます。

旧日本軍戦闘機研究者のコメントによると、統一型増槽の発見は初めてで、大変貴重な発見と言えます。今後の市史編集に係る調査や、郷土博物館金のすずで企画展等を開催する場合はご協力いただけると内諾されているので、一般公開できることを期待しています。この他、第二海軍工廠の工具類を所有している方もいるようで、市史編集部会設置後は、こうした資料の調査も実施したいところです。

金子委員長 零式戦闘機の燃料タンク発見の報告、ありがとうございました。大変貴重な

発見ということで、このような資料を公開することで、市民からその他の資料に関する情報提供を促進することにつながると思いますので、一日も早く、公開できる場を設けられることを期待します。

梶山委員 そのうち、旧木更津海軍航空隊にあったロケットの資料が出てくるかもしれません。ロケットの資料がでてくれば、それこそ大発見です。

金子委員長 今後も、歴史的な発見が期待できそうです。今回は、所在地、所有者名は伏せるということと、袖ヶ浦市からの報告もあるでしょうから、質問はひかえま

す。
本日の審議は以上です。事務局は、本日の意見を整理し、次回の市史編集委員会の議題内容の検討をお願いします。

事務局（今関文化課長）

金子委員長、ありがとうございました。以上をもちまして、今年度第1回木更津市史編集委員会を終了します。長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。

平成 26 年 5 月 29 日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子 馨